

プラットフォームの設置目的と検討の進め方

資料 2

プラットフォームの設置目的

- 京都市ではこれまで、歴史都市京都の特性を活かしつつ、市民が安心・安全に住み続けられる災害に強いまちづくりを目指し、地域主体の防災まちづくりを軸に、助成事業による避難経路確保や道路指定等の規制誘導策による建物更新の円滑化に取り組んできた。
- しかしながら、極小な袋路や狭小な細街路が集中しているエリアでは、これらの手法だけでは十分な改善が見込めない状況にある。
- こうしたエリアの改善に向け、官民が連携し、街区の安全性や住環境の向上に資する路地再生を促進させるため、産官学金による対話と共通認識を深める場として「京都市路地再生プラットフォーム」を設置する。

検討の進め方

平成30年度

第1回
(9月27日)

- 意見交換
路地再生と官民の連携について

第2回
(11月下旬)

- 民間事業者による路地再生に係る事例紹介・提案
- 意見交換
土地再編・集約の仕組み、種地確保の手法について

第3回
(1月頃)

- 学識経験者による講演
- 意見交換
路地再生を行う街区の防災性向上と整備方針について
路地整備の進め方について

第4回
(3月頃)

- 路地再生の仕組みのまとめ

平成31年度

第5～8回

- 土地再編・集約のシミュレーションを実施する候補地選定の検証
- 候補地におけるシミュレーションの検証
- 土地再編・集約の実施に向けた課題・対応について
- 将来を見据えた事業展開について

参考資料 2

(京都市路地再生プラットフォーム会議資料より)

官民連携による路地再生の整備イメージ（第1回会議 資料3 修正）

【フロー（たたき台）】

【街区、再生エリア、路地のイメージ】

